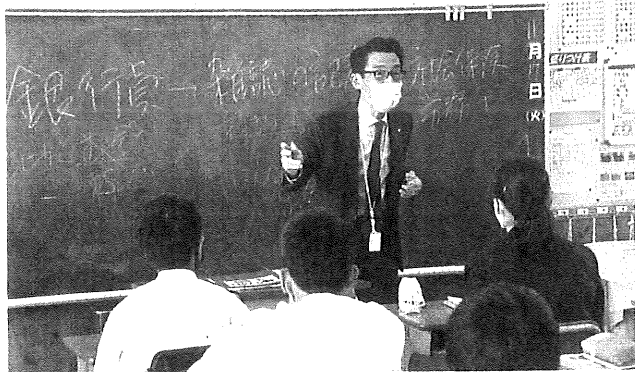


労働の意味、心構え学ぶ

社労士講師に出前講座

県社会保険労務士会の出前講座が17日、朝霞市立朝霞第一中学校(島徹校長、生徒数885人)で行われ、同会あさか支部(福山光仁支部長)の社労士4人が、労働の意味や社会の助け合いの仕組みなどを中学1年生に分かりやすく伝えた。

講師は堀川典さん、古川史津子さん、背黒文宏さん、竹島陽子さ



朝霞第一中

自身の経験を交えながら、働くことに対する心構えを熱っぽく語る社労士の背黒さん—朝霞市立朝霞第一中学校

んの4人。生徒約40人、この4教室に分かれ、2コマずつ授業を行った。

1年4組では、家族のために行ったことのある家の手伝いについて、生徒から「風呂掃除」「洗濯」などと声上がる中、講師の堀川さんは社会も同様に一人では生きていけないと強調。年を取ったり病気、けがなどで働けなくなった時に助けてもらえる年金などの社会保険制度を紹介しつつ、「人はみんな、誰かの役に立って生きている。それが社会」と力を込めた。講座を受けた篠崎勇仁さん(13)は「働くことに対する心構えを教わった。保険証を持つていけば料金の3割で医者に診てもらえるのは、残りの7割を社会で助け合っているからということを知った」と話した。各教室を巡って講座を見守っていた島校長は「中学1年生にとって、働くことについて考えるいいきっかけになったはず」と、これからの生活に期待を込めていた。

(江田崇)